



名古屋大学 予防早期医療創成センター 第10回ワークショップ



<https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20220128/>

2022年1月28日(金) 10:00~17:30

ハイブリッド方式(リアル会場 名古屋大学 東山キャンパス ES総合館 ESホール)

地下鉄名城線名古屋大学駅 3番出口より徒歩3分



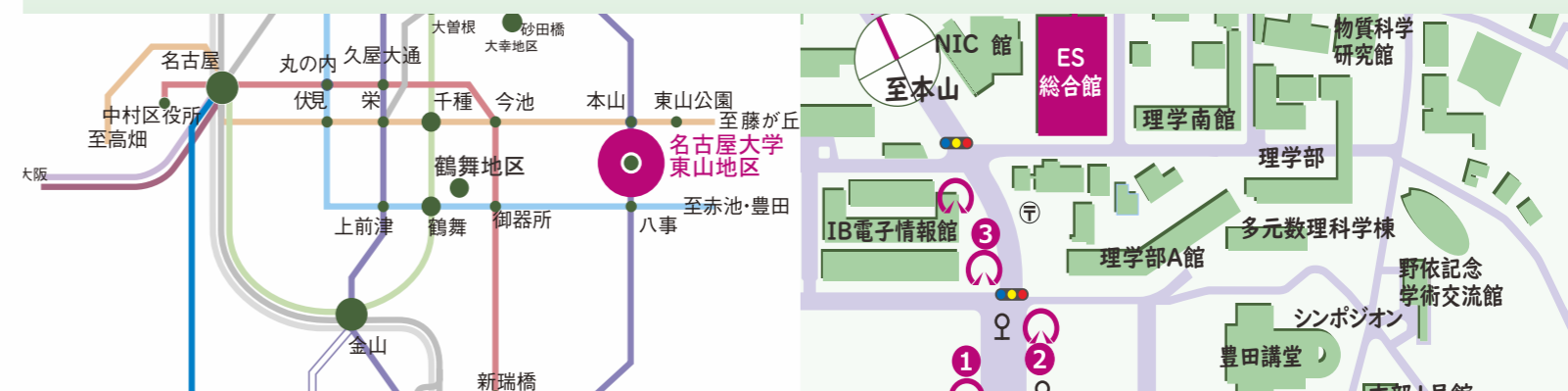
問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター
URL <https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学
ナショナルイノベーション複合施設(NIC) 5F
TEL・FAX:(052) 789-5499
E-mail:PME事務室
kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp

申し込み方法



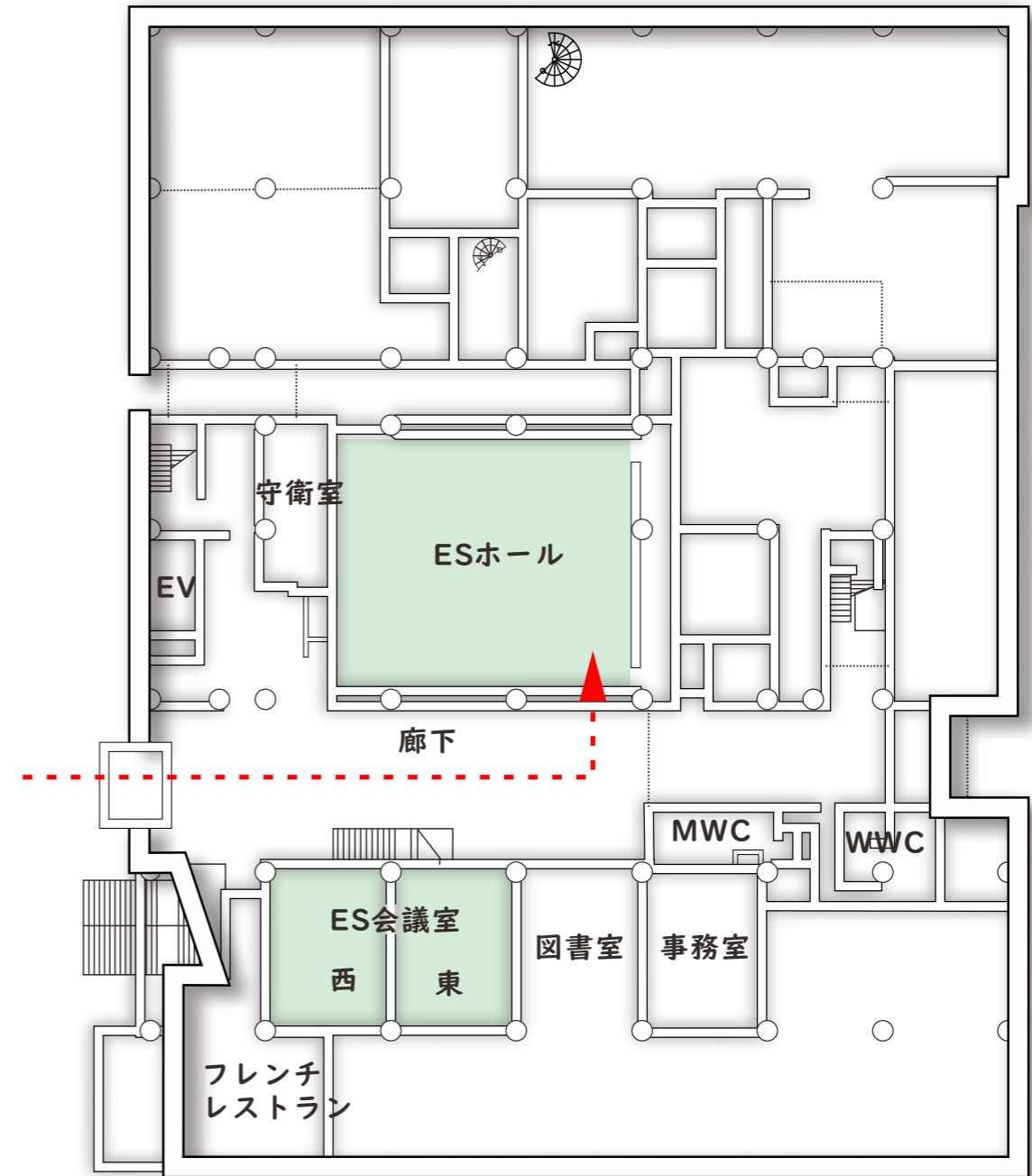
QRコードまたは <https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/> にアクセスし、必要事項を入力下さい。1)所属 2)部署名 3)氏名 4)メールアドレス 5)参加を希望するプログラム 6)リアル参加希望の有無



主催 名古屋大学予防早期医療創成センター

時間	ESホール		
10:00 ～ 10:10	挨拶 門松健治 予防早期医療創成センター長 医学系研究科 教授		
10:10 ～ 11:10	【招待講演】 愛知県は医療崩壊をどうやって防いだか 藤田医科大学 学長 藤田医科大学・病院群 統括病院長 湯澤 由紀夫(ゆざわ ゆきお)氏		
11:15 ～ 11:45	ポスターセッションに関するショート・トーク		
昼食休憩			
時間	A会場：ESホール	B会場：ES会議室東	C会場：ES会議室西
12:45 ～ 13:10	ポスターセッション A1	ポスターセッション B1	ポスターセッション C1
13:15 ～ 13:40	ポスターセッション A2	ポスターセッション B2	ポスターセッション C2
13:45 ～ 14:10	ポスターセッション A3	ポスターセッション B3	ポスターセッション C3
14:15 ～ 14:40	ポスターセッション A4	-	-
時間	ESホール		
14:50 ～ 15:25	講演 1 健康保険組合を取り巻く課題：コロナ禍を踏まえて 健康保険組合連合会 常務理事 河本 滋史(かわもと しげふみ)氏		
15:25 ～ 16:00	講演 2 新型コロナウイルス感染症流行下において認知症高齢者及び家族が直面した課題 広島大学大学院 医学研究科 共生社会医学講座 教授 石井 伸弥(いしいしんや)氏		
16:05 ～ 16:40	講演 3 コロナ禍でのスポーツイベント運営～逆境をチャンスに～ (株)名古屋グランパスエイト マーケティング部 ファンディベロップメントグループ グループリーダー 遠藤 友貴彦(えんどう ゆきひこ)氏		
16:40 ～ 17:15	講演 4 コロナ禍における個人情報の共有～海外渡航のためのデジタル証明書を例に～ 慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 特任准教授 藤田卓仙(ふじたたかのり)氏		
17:20 ～ 17:30	挨拶		

※ 入場時には不織布マスク着用の上、検温、手指消毒をお願い致します。



10:10
～11:10

愛知県は医療崩壊をどうやって防いだか

藤田医科大学 学長
藤田医科大学・病院群 統括病院長

湯澤 由紀夫氏
(ゆざわ ゆきお)

新型コロナウイルスは、オミクロン株の出現により新たな局面に入ってきた。第5波までのパンデミックの経過の中で、第4波の関西地区・第5波の東京地区が医療ひっ迫の危機を経験した。一方、この間愛知県は多くの感染者の発生がありながら、医療体制崩壊の瀬戸際で持ちこたえてきた。これは、感染者数の相違もあるものの、早期から県主導の待機施設の導入及びコロナ専門病院の立ち上げ、さらにワクチン大規模接種会場の運用による高いワクチン接種率などの効果も影響していると考えられる。

全国レベルでは、全国医学部長病院長会議(AJMC)は、第1波の時点から全国82大学病院及び分院(55施設)における受け入れ感染者数及び医療への影響度を定期的に全国に発信し、重症患者は特に大学病院が中心となり受け入れるように要請を行ってきた。

本講演では、病院長の視点から、今までのCOVID19対策の推移及びAJMCとしての取り組みについて報告する。

時間	会場	タイトル	発表者
	A1	エッジデバイスを活用したデジタル治療への挑戦	日本システムウェア株式会社 プロダクトソリューション事業本部
12:45 ～ 13:10	B1	通所介護事業所参加者の体力変化の特性	愛知県立芸術大学 名古屋大学予防早期医療創成センター 株式会社はあとふるあたご
	C1	ヒト培養筋組織を用いた筋力低下を抑制するペプチドの開発	名古屋大学 大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 本多研究室
	A2	「educer食育」の取組乳幼児期からの未病対策	株式会社ミールケア 一般財団法人 日本educer食育総合研究所
13:15 ～ 13:40	B2	抗うつ薬の処方に関連する内科的要因及び生活習慣の探索 -メタボ健診とレセプトデータの解析より-	名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部 データセンター クリニカルデータ品質管理部
	C2	遺伝子改変ニワトリによるワクチン生産系の構築	名古屋大学大学院 生命農学研究科 附属鳥類バイオサイエンス研究センター
	A3	介護記録データ(バイタル、食事、睡眠等)を用いた介護実態や健康施策の利活用について	株式会社ケア・ダイナミクス
13:45 ～ 14:10	B3	データ駆動型個別化栄養学 -プレジジョン栄養学-のプラットフォームの構築	名古屋大学大学院 生命農学研究科 栄養生化学研究室
	C3	血管のしなやかさを測る	LaView株式会社
14:15 ～ 14:40	A4	保険者とかかりつけ医の連携強化治療中患者の特定健診受診率向上	デンソー健康保険組合、愛鉄連健康保険組合 健康情報処理センターあいち、名古屋大学予防早期医療創成センター、株式会社あまの創健

- ポスターセッションは、1セッション25分です。
- 25分の間にプレゼンターは約5分のプレゼン及び約6分のディスカッションを、小休止を挟んで2回行います。
- 参加者は途中小休止で別のセッションに移動することも可能です。
- 参加登録した方は、後日 A会場、B会場、C会場各々の招待メールが配信されます。



時間	タイトル	内容
14:50 ～ 15:25	健康保険組合を取り巻く課題： コロナ禍を踏まえて 健康保険組合連合会 常務理事 河本 滋史 (かわもと しげふみ) 氏	<p>今般のコロナ禍を通じて、我が国の医療提供体制の硬直性・脆弱性、医療資源の散在等の諸問題が、より顕在化した。医療に対する国民の不安が高まるなか、コロナ禍での受診行動の変化も踏まえつつ、「安全・安心」で「必要な時に必要な医療にアクセスできる」体制を堅持することは喫緊の課題である。</p> <p>一方、構造的な少子高齢化の下で、国民皆保険制度の持続可能性を高めるためには、効率的・効果的な医療の推進とともに、現役世代に過度に依存する制度から全世代で支え合う制度への転換が待たない。また、我々、保険者は引き続き加入者の予防・健康づくり、ヘルスリテラシー向上に努め、社会環境の変化に応じた取り組みを実践して、国民の健康寿命の延伸に貢献していきたい。</p>
15:25 ～ 16:00	新型コロナウイルス感染症流行下において認知症高齢者及び家族が直面した課題 広島大学大学院 医学研究科 共生社会医学講座 教授 石井 伸弥 (いしい しんや) 氏	<p>認知症高齢者や家族は新型コロナウイルス感染症流行下において、感染予防の困難さ、感染予防に伴う社会的制限の引き起こす身体面・精神面への悪影響、地域リソースの減少による孤独・孤立のリスクなど多岐に渡る課題に直面していた。</p> <p>コロナ禍が直接引き起こした課題もあるが、一方で医療介護現場や地域で従来より課題であったものがコロナ禍によってより顕在化したものもある。</p> <p>本講演では認知症者の実態調査等を通して、新型コロナウイルス感染症流行下において認知症者や家族の直面した課題や支援のあり方について考察する。</p>
小休止 (5分)		

時間	タイトル	内容
16:05 ～ 16:40	コロナ禍でのスポーツイベント運営～逆境をチャンスに～ 株式会社名古屋グランパスエイト マーケティング部 ファンディベ ロップメントグループ グループリーダー 遠藤 友貴彦 (えんどう ゆきひこ) 氏	<p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「満員のスタジアム」、「大きな歓声」、といった今までの形態から大きく転換を迫られたJリーグにおいて、名古屋グランパスが「新しい生活様式」の下で実施してきた取り組みを紹介する。</p> <p>プロスポーツ興行としては国内初の取り組みであった、「ワクチン・検査パッケージ」をはじめ、出来ない理由が増えたコロナ禍でも知恵を絞って多くの新しい取り組みを始めた。</p> <p>観客の安心・安全の確保と、最大限喜んでいただけることの両立のために逆境でも悲観することなく取り組んできた挑戦を実務経験・所感を交えながら示したい。</p>
16:40 ～ 17:15	コロナ禍における個人情報の共有～海外渡航のためのデジタル証明書を例に～ 慶應義塾大学 医学部 医療政策・管理学教室 特任准教授 藤田 卓仙 (ふじた たかのり) 氏	<p>2021年12月20日に新型コロナワクチン接種デジタル証明書の発行が始まった。我が国は、国民の77%がワクチンを2回接種済みであり、ワクチン接種証明書アプリは国民の8割弱が潜在的なユーザーとなるPHRアプリとなる。</p> <p>現状、日本のワクチン・検査パッケージはクーポン券発行を中心に利用されているが、欧州や中国では様々な行動制限と紐づく形で運用がなされている。データの持ち方に関しても、国家主導で集中型のデータベースにデータを持つか、個人が自らのスマートフォンに分散型でデータを持つか、思想的に2つの潮流がある。</p> <p>これらデジタル証明書の課題と、個人情報の共有のあり方に関して、国内外のユースケースに基づいて紹介する。</p>
17:20 ～ 17:30	挨拶	

